

3. 目指す姿と方針

3.1. 将来像

丸岡城は全国でも類を見ない、まちとの距離が近い、市民にとって“すぐそこにある”身近な天守です。

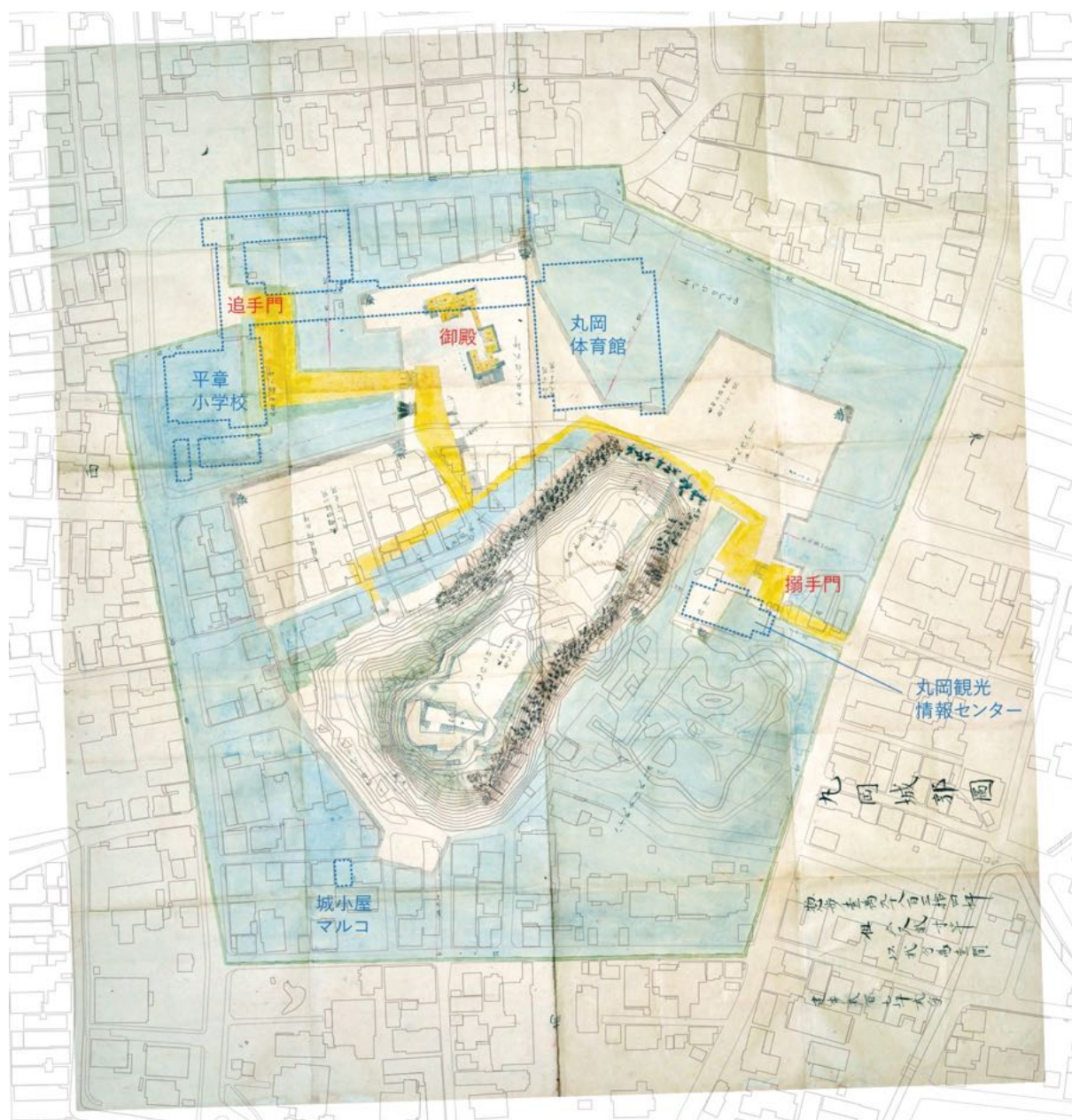
市民が丸岡城をまちのシンボルとして誇りに思い、丸岡のより良い未来を思い描き、城周辺の魅力を実感できる特徴ある整備と、市民の活発な活動が両輪となって進む観光まちづくりを積み重ねることで、丸岡城と城周辺の価値を高め、次世代へと繋げていきます。

目指す将来像（50年後：2070年頃）



3-1 目指す将来像イメージ

将来像の根拠とした現代図と陸軍省城絵図の重ね図

3-2 現代図と陸軍省城絵図の重ね図¹⁰

本地図は、しろはく古地図と城の博物館富原文庫 代表富原道晴氏が書籍化した陸軍省城絵図における丸岡城の図面と、現在の丸岡城周辺の地図を、天守を起点に重ねたものです。これらを対照することで、かつての遺構と現在の公共施設等との位置関係が明確に分かります。

陸軍省城絵図は、明治初期の丸岡城の姿、堀割の正確な長さや位置、櫓が図示されており、これまで不明だった二ノ丸御殿の間取りも記載されていることから、非常に価値の高い資料です。

¹⁰ 出典：「丸岡城郭図」（『陸軍省城絵図』）しろはく古地図と城の博物館富原文庫蔵
画像提供：戎光祥出版株式会社

3.2. 基本的な考え方

将来像を実現するための基本的な考え方を定めます。

1. 内堀五角形内の城郭が想像できる姿に戻しながら前進する整備

丸岡城周辺のこれまでの歴史、文化的・社会的な取り組みに敬意を払いながら、廃城令前の内堀五角形の城郭が想起される姿に少しずつ戻していく整備、天守を眺めたり天守を借景に行われる活動など、時代に合わせた楽しみ方を可能とする整備を進めていきます。

2. 50年後の未来に向けた段階的な整備

丸岡城周辺の賑わい創出と、文化的資源の継承・活用のバランスを保ちながら、効果的で成果の見える段階的な整備を積み上げていきます。

3. 促して繋げていく賑わいづくりの共創

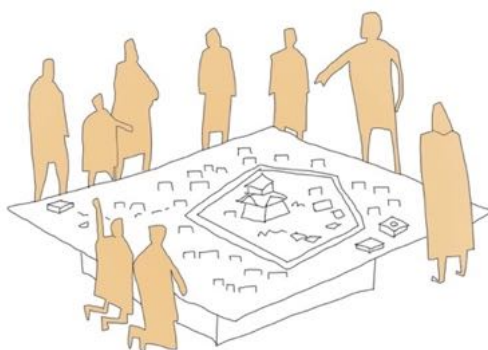
拠点整備を着実に行之、市民の主体的な参加を促し、市民が活動や多様な経済活動を楽しみながら持続的に行うことができる仕組みをつくり、公有地整備と丸岡城下町の賑わい創出を一体化させて推進していきます。

3.3. 方針

3つの基本的な考え方に基づき、将来像実現のための方針を次の通り設定します。

方針 1. 公共施設の再配置

坂井市および丸岡エリアの人口構成、市民の暮らし方・働き方などの社会構造の変化、既存建物の耐久年数などを考慮して、機能の再配置、統廃合を検討しながら、城郭を活かしたまちの骨格・構造の強化を図っていきます。



方針 2. 歴史的価値の継承と未来の価値創造の両立

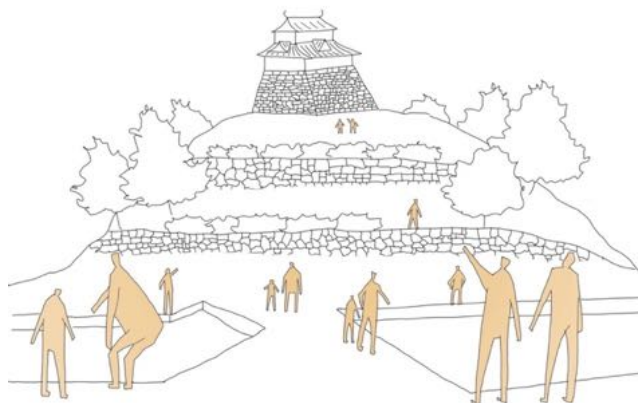
これまでの調査により明らかになった丸岡城天守の歴史的価値を、市民や来訪者と広く共有し、文化的資源として城郭の価値を高めていきます。また同時に新しい機能をかけあわせ、歴史を尊重しながらも時代にあった、丸岡らしさを打ち出す特色あるエリアを形成していきます。

市民に広く協力を得ながら、引き続き丸岡城や周辺の写真、図面、文書などの資料収集を行います。

公共施設跡地を皮切りに、内堀五角形内の発掘調査を順に実施し、現在と古地図の確認を行います。この成果を堀割、城門、廊、御殿の復原・復元・再現計画に繋げるとともに、可能な限り遺構を展示していきます。

天守への視点場を確保し、道筋、外堀の水路、神社仏閣といった、残されている城郭の構造を活かした整備や修景により、城下町風情を感じられる街並みをつくっていきます。

豊原寺跡や丸岡藩主の菩提寺や関連する神社仏閣を丸岡城との関わりが深い保存・活用すべき資源として位置付けます。



方針 3. 周遊性のあるエリアづくり

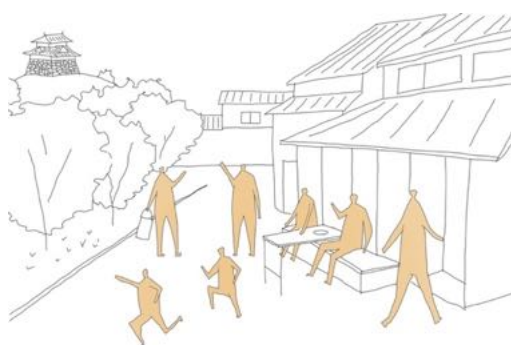
段階毎の整備と賑わい創出を両立させるために、空き家、空き地等を積極的に活用し、短期・中期・長期で集中的に賑わいを創出するエリアを定めます。

具体的には内堀五角形外周、外堀南側、丸岡バスターミナルとお天守前広場を繋ぐルートを重点動線とし、人々の賑わいを創出するエリアとして位置づけます。

賑わいを創出するエリアでは、天守への視点場確保、往来を楽しめる遊歩道の整備、街並みガイドラインづくり等で、城下町風情が感じられる街並み・景観創出を推進するとともに、空き家・空き地等の民間利活用を促進する仕組みづくりを支援していきます。

市民と来訪者との交流の中で、新たな活動や生業を生み出すことのできる場づくりを推進していきます。

また、これらのエリアを中心に、新規店舗の誘致、民間への起業支援、食べ歩きなど周遊観光と生業の相乗効果が期待できる観光振興策の実施、新たに通り名をつけたり旧町名の存在感を広めたりなど、界限全体を盛り上げていく仕組みづくりが考えられます。



方針 4. 民有地とその活用について

内堀五角形内の民有地について、住民が快適に暮らしていくための環境を維持しながら、住宅の更新時期などの節目で市に相談できる仕組みと体制を整えます。

なお、条件が整う場合には、市による取得を検討します。公有地となった場合は、余白空間としてイベントや周遊の中継点で活用し、然るべき機会に発掘調査等を行い、最終的に目指す将来像の実現に融合させていきます。

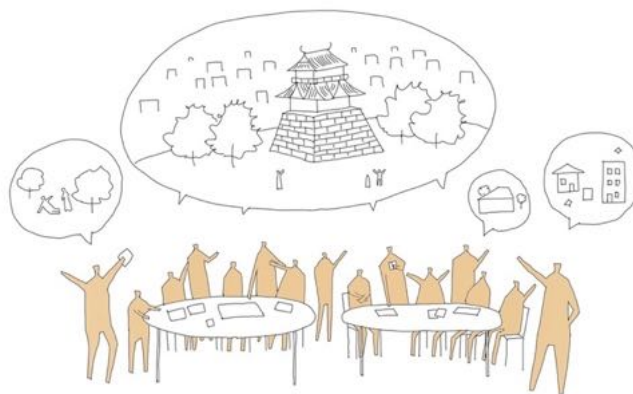


方針 5. 歴史文化を踏まえたまちづくりを公民共創で推進

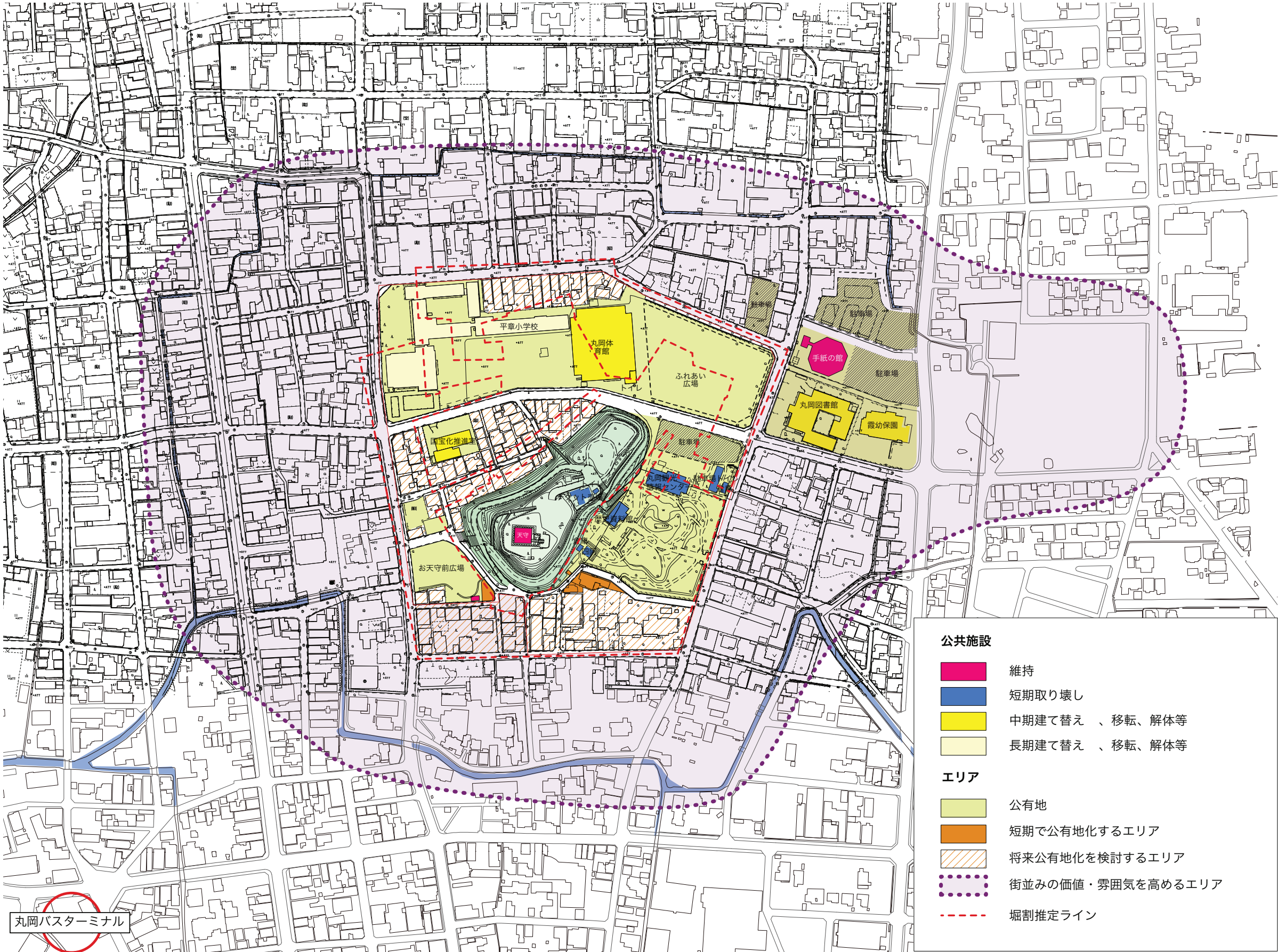
市（関係各課）、有識者、市民など関係者で構成される委員会等を設置し、整備基本計画実行の推進とその検証を行い、継続的な整備が可能となるよう努めていきます。

また、丸岡エリアのまちづくり団体などの活動が活発かつ自律的・持続的に行われるよう、連携の強化を図り、支援します。

さらに、大学や研究者等の活動、小中高校生の活動、百口城主など全国のお城ファン、丸岡城ファンとの交流を整備やまちづくりに活かし、公民学が共創する城周辺の賑わいづくりを目指していきます。



3.4. 丸岡城周辺整備基本計画〔全体方針図〕



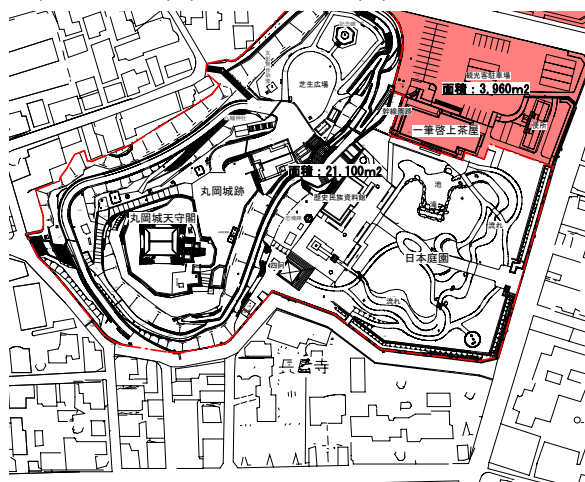
3-3 整備基本方針図

3.5. 対比図による整備方針

方針に基づき、現代図と古地図等を対比させたエリア毎の整備方針を整理します。

対比図 1. 現 霞ヶ城公園周辺エリア

現 霞ヶ城公園周辺の対比図



3-4 霞ヶ城公園 公園区域図



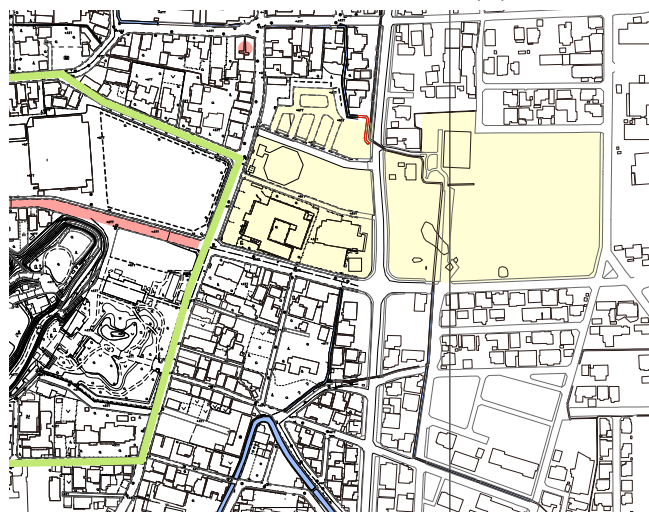
3-5 明治初期（陸軍省城絵図）

（整備方針）

- 修景のための城山の樹木伐採。桜の名所を維持（短期）
- 霞ヶ城公園南側道路（市道南霞 9 号線）の廃道化と用地買収による公園拡大（短期）
- 霞ヶ城公園平地部分を再整備。水堀を想起させる水辺空間へ（短期）
→丸岡観光情報センター＋水盤で新たな観光コンテンツ活用（短期）
→城郭の価値を高めながら、さらなる市民利用・観光活用が可能な貴重な公共空間として、水面広場を拡大し水堀の部分再現へ（長期）
- 内堀五角形内の民有地の活用（短期～長期）→堀割の一部再現（長期）

対比図 2. 東ノ丸～三ノ丸北東エリア

東ノ丸～三ノ丸北東エリアの対比図



3-6 現代図



3-7 江戸期（正保城絵図）¹¹

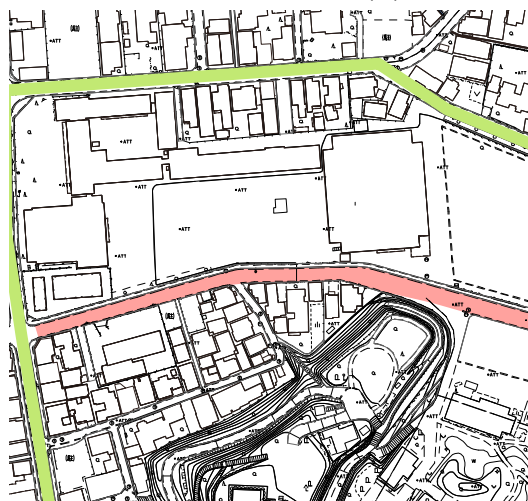
（整備方針）

- 三ノ丸北東エリアの公有地ゾーンのあり方について
 - 歴史博物館機能、図書館機能、駐車場を含む、歴史文化観光の複合施設機能として、図書館の老朽化にあわせ「歴史文化観光ゾーン」構想・計画（短期）
 - 整備（中期）
- 体育館とふれあい広場のあり方について
 - 体育館の移転（中期）
 - 体育館跡地、ふれあい広場一体の調査発掘（中期）
 - 堀割の一部再現（長期）
- 内長畝口門^{うちのうねぐちもん}の復原について
 - 市が所有している部材を可能な限り使用し、ふれあい広場北東隅に復原展示（短期）
- 不明門^{あかづのもん}の復原について
 - 移築されている不明門の取得を目指す（短期）
 - 取得できた場合は霞ヶ城公園やふれあい広場等公有地に復原展示（中期）
- 内堀五角形内の民有地の活用（短期～長期）→堀割の一部再現（長期）

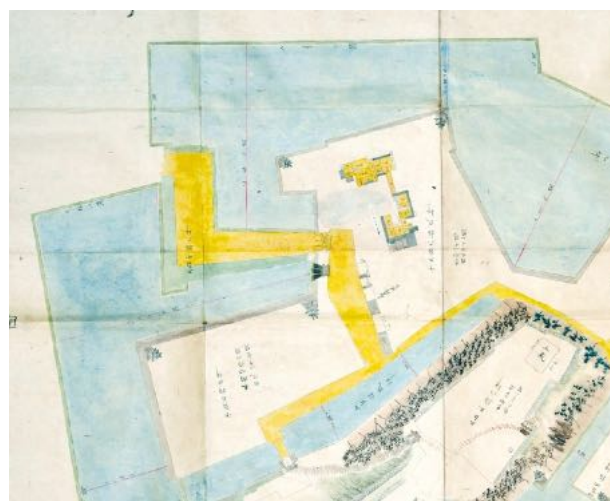
¹¹ 出典：「越前国丸岡城之絵図」（『正保城絵図』1644 年/正保元年）国立公文書館デジタルアーカイブ

対比図 3. 本丸～二ノ丸エリア

本丸～二ノ丸エリアの対比図



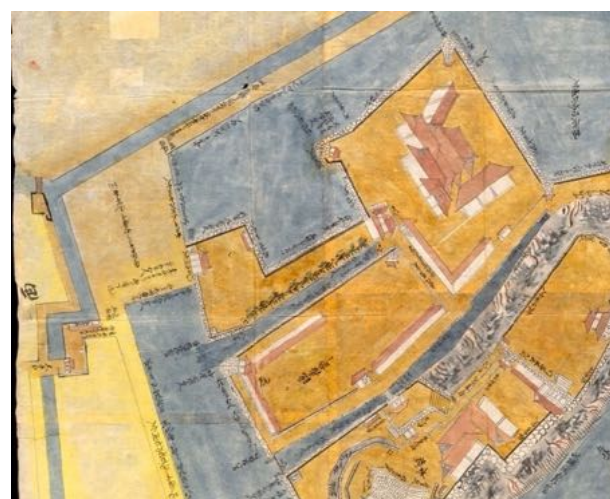
3-8 現代図



3-9 明治初期（陸軍省城絵図）



3-10 江戸期（諸国居城之図集「越前丸岡城図」）¹²



3-11 江戸期（松平文庫「越前丸岡城図」）¹³

（整備方針）

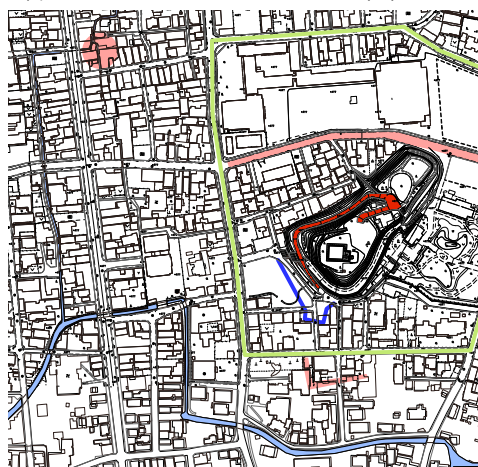
- 平章小学校の移転について（長期）
 - 少子高齢化の状況などにより、坂井市内の小学校再編成が実施される場合、条件が揃い次第、内堀五角形の外へ移転を検討
- 平章小学校が移転した場合、跡地の発掘調査を進め、次の 3 施策実施を合わせて検討し、整備を推進
 - ①跡地について追手門と登城遊歩道を再現
 - ②二ノ丸御殿を復元
 - ③東西道路（市道室町城東線）の廃道化
- 内堀五角形内の民有地の活用（短期～長期）→堀割の一部再現（長期）

¹² 出典：「越前丸岡城図」（『諸国居城之図集』1692 年/元禄 5 年）金沢市立玉川図書館蔵

¹³ 出典：松平文庫「越前丸岡城図」福井県文書館保管

対比図 4. 天守～外堀南西エリア

天守～外堀南西・西エリアの対比図



3-12 現代図



3-13 江戸期（正保城絵図）



凡例：赤（江戸時代）青（近代以降）

3-14 石積の年代区分¹⁴

（整備方針）

- 耐震改修の工事道路として新設された城山内舗装道路の再検討（短期）→撤去・改修する方向で再整備（中期）
- 城山南側の井戸周辺の発掘調査（中期）
- 城山南側の麓が崖地のため、防災的観点からも周辺の公有地化の検討、発掘調査（短期～中期）
- 内堀五角形内の民有地の活用（短期～長期）→堀割の一部再現（長期）
- 西側の外堀の環境整備（中期）
- 西側の升形（土手）と予測される箇所調査（長期）→外堀の遺構・水路保存も兼ね、可能であれば一部再現（長期）

¹⁴ 出典：『坂井市埋蔵文化財発掘調査報告書 丸岡城跡』（2021年、坂井市教育委員会）p69 第42図「現況石積整理図」より。凡例の濃赤「自然石野面積石垣」はこのまま、薄赤「切石積（近代以降）」と黒「川原石練積（現代）」部分を青色彩色